

んか?『ビジネス発想源』によれば、断ってもマナー違反にならないどころか、酒を強要するような人間がはびこる業界は発展しないとのこと。

江戸時代の武士の世界では、家来は上からの命令は絶対服従で、酒を断ったぐらいで斬り殺されてしまう、というような厳しいイメージがありますが、実はそんなことはありません。武士の時代にも飲めない人間というのはいて、そういう人への配慮も決まっています。もし、酒が飲めない人間が、武士の集まる酒の席に出席した時はどうするか。下戸の側も「私は下戸です」とは直接言いませんが、お酌をされる時に、お酌をする人の顔を見るのです。普通は盃のほうに目を下げるのが礼儀ですから、お酌をする人に目を合わせるのは異例のことですが、これが「私は飲めません」の合図なのです。そして、酌をする人もその合図を察知して、口をつける程度にししか注がない。それについて亭主やその場にいる人たちも「おい、注いでないぞ」とは言わず、それで注いで飲んだことにするのです。武士の礼法とは、「やせ我慢」ではなく、「慎みと気配り」なのです。

例えば、武士は真夏に羽織袴を着ていても、汗をぬぐうことは慎むべきとはいうものの、どうしても暑くてしょうがないという時には、「扇子を2,3間開いて、下方で扇ぐ」というものがよしとされていました。

つまり、暑さをやせ我慢するのではなく、扇子で扇いでもいいよという配慮がありました。

また、武士は正座をするのが当たり前なので、足がしびれてでもやせ我慢して座り続けるものだと思いますが、これも足がどうしてもしびれた時は親指で立ちお尻を持ち上げるという逃げ道としての座り方も、作法にはあります。

それが作法なのですから、それを目にしたほうもいちいち強要はしませんでした。強要をすることが礼儀ではないし、強要をすることが作法ではありません。相手に慎みと気配りができる人ほど、信頼を集めるようになる人間だと思います。

揚げ足取りではなく、気配り心配りができる人間になりましょう。

## コミュニケーション能力の大切さ

鎌田善政社長



先日求根塾という勉強会に2日間参加してきました。会のスタートは大きな挨拶

で始まり、続く国家斉唱も大きな声で歌います。いかに気合いが入っているかというのが伝わってきて、私共も見習うべき姿であると感じました。

イオンタウンの土木の完成検査がありました。検査に来られていた方々が寒そうにしていたので、早速軍手を買ってきて差し上げると大変喜んで頂けました。又、イオングループの担当部長の方からも「鎌田建設さんの担当者の対応が良く、逐一報告をしてくれたおかげで無事完成することができました。」と褒めていただきました。お蔭様で検査はスムーズに終わり、やはり気づく心、そして上手にコミュニケーションを取ることが大事であると感じました。各現場においても途中の報告が無いと、その時々で必要な手を打つことが出来ませんので、こまめな報告をお願いします。

1月の大雪で会社に泊まり込み、緊急出動を行った土木部の皆さんにおいては本当にご苦労様でした。2月はまだまだ寒さも厳しく、動きも鈍くなりがちですので、指差し呼称を徹底して絶対に事故を起こさないように気を付けて下さい。

## 気配りと心配りのできる人に…

鎌田安典専務



飲めないお酒を上司など勧められ困った経験がある方、いらっしやいませ